



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月31日  
上場取引所 東

上場会社名 ワタベウェディング株式会社  
 コード番号 4696 URL <http://www.watabe-wedding.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃  
 問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 平木 親臣 TEL 075-778-4111  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月1日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	34,480	2.1	1,034	△33.3	1,075	△15.3	575	7.2
29年3月期第3四半期	33,783	△0.1	1,551	279.0	1,269	122.3	536	432.7

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 596百万円 (0.4%) 29年3月期第3四半期 593百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	58.04	ー
29年3月期第3四半期	54.14	ー

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	23,518	11,067	46.9
29年3月期	21,348	10,540	49.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 11,038百万円 29年3月期 10,485百万円

(注) 当第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、平成29年3月期については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	ー	0.00	ー	5.00	5.00
30年3月期	ー	0.00	ー		
30年3月期(予想)				ー	ー

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
平成30年3月期の期末配当予想額は未定としております。

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	2.5	100	△90.0	200	△70.4	100	△19.1	10.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	9,909,400株	29年3月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	500株	29年3月期	451株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	9,908,933株	29年3月期3Q	9,909,068株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料等に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報) .....	9
(企業結合等関係) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては、ハワイ・ワイキキ地区に平成29年5月にオープンした「ラニレア チャペル」、沖縄本島から車で行ける利便性と美しい景観が魅力の古宇利島に平成30年7月にオープンする「古宇利島 空と海の教会」などの挙式施設の新設に加え、その他エリアにおいても主要施設のリノベーションなどを積極的に行い、多様化するお客様のニーズに合わせた付加価値の高い商品を投入し、販売力の強化に努めました。また、一時営業休止中のハワイの主力挙式施設「コオリナ・チャペル・プレイス・オブ・ジョイ」の平成30年10月リニューアルオープンを発表するなど、更なる顧客獲得に向けた商品ラインナップの強化を図りました。

また、新たな販売チャネル戦略として、これまで出店していないエリアでの当社認知度向上と新規顧客獲得を図るべく静岡県浜松市に「浜松ラウンジ」を平成29年10月にオープンいたしました。

更に、従来の販売手法やサービス内容とは異なる新たなリゾート挙式の価値提案を行う2つの新ブランド（オンライン限定の低価格帯ブランド「EASY by WATABE WEDDING」、こだわり層向けの高価格帯ブランド「PLATINUM BIRTHY（プラチナ パーシー）」）を本格稼働し、様々なニーズにお応えするための対応も積極的に進めてまいりました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、リブランドによる積極的な価値訴求を行い、宿泊・婚礼共に好調に推移いたしました。更に、平成29年5月には人気イタリアン「リストランテ カノビアーノ」、平成29年9月にはニューアメリカングリル「カナデ テラス」の2つのレストランをオープンするなど、総合ラグジュアリーシティホテルとして館内施設の充実を図り、収益に寄与いたしました。

メルパルクでは、婚礼組数は減少したものの、松山・横浜の客室リノベーションを行い、付加価値の向上を図りました。また、ワタベウェディングとの共同事業として、平成29年9月には、ホテルメルパルク東京内のフォト事業をワタベウェディングの直営店舗とした「東京・芝公園フォトスタジオ」をオープンし、多様化するニーズに合わせた複合型フォトスタジオとして積極的なサービス展開を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高34,480百万円（前年同四半期比2.1%増）、営業利益1,034百万円（前年同四半期比33.3%減）、経常利益1,075百万円（前年同四半期比15.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益575百万円（前年同四半期比7.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

## ① リゾート挙式

挙式取扱組数は減少したものの、上述の顧客ニーズに合わせた商品展開を行ったことなどにより、1組当たり単価が増加し、売上高は14,005百万円（前年同四半期比1.6%増）となったほか、利益面につきましては、新施設や新事業立ち上げに伴う広告宣伝費などの先行投資により、セグメント利益は238百万円（前年同四半期比70.1%減）となりました。

## ② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や客室リノベーションなどの効果により、売上高は20,474百万円（前年同四半期比2.4%増）となったほか、利益面については、原価や販売管理費の削減に努めた結果、セグメント利益765百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ887百万円増加し、10,348百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,282百万円増加し、13,170百万円となりました。これは主に建物及び構築物の増加によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ2,170百万円増加し、23,518百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ102百万円減少し、8,868百万円となりました。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,746百万円増加し、3,582百万円となりました。これは主に長期借入金の増加によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ1,643百万円増加し、12,451百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し、11,067百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、業績は概ね計画通り推移していることから、平成29年5月11日発表の業績予想を変更していません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,436	6,750
売掛金	1,580	1,524
商品	276	234
原材料及び貯蔵品	398	449
その他	1,784	1,408
貸倒引当金	△15	△18
流動資産合計	9,460	10,348
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	147	124
建物及び構築物(純額)	4,012	5,086
器具備品(純額)	1,006	1,203
土地	1,893	1,893
その他(純額)	630	211
有形固定資産合計	7,690	8,519
無形固定資産		
のれん	511	582
その他	498	492
無形固定資産合計	1,009	1,074
投資その他の資産		
差入保証金	2,666	2,752
その他	524	826
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	3,187	3,576
固定資産合計	11,887	13,170
資産合計	21,348	23,518
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,549	1,821
短期借入金	975	1,512
未払法人税等	309	304
前受金	2,466	2,251
賞与引当金	626	351
その他	3,043	2,626
流動負債合計	8,970	8,868
固定負債		
長期借入金	—	1,500
退職給付に係る負債	1,050	1,072
資産除去債務	588	828
その他	197	181
固定負債合計	1,836	3,582
負債合計	10,807	12,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,052
利益剰余金	2,579	3,105
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,793	11,333
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	23
繰延ヘッジ損益	25	11
土地再評価差額金	△903	△903
為替換算調整勘定	514	550
退職給付に係る調整累計額	36	23
その他の包括利益累計額合計	△308	△294
非支配株主持分	55	28
純資産合計	10,540	11,067
負債純資産合計	21,348	23,518

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	33,783	34,480
売上原価	10,945	10,781
売上総利益	22,838	23,698
販売費及び一般管理費	21,286	22,664
営業利益	1,551	1,034
営業外収益		
為替差益	—	137
その他	54	72
営業外収益合計	54	210
営業外費用		
為替差損	307	—
休止施設費用	—	157
その他	29	12
営業外費用合計	336	169
経常利益	1,269	1,075
特別利益		
固定資産売却益	48	7
関係会社株式売却益	60	—
その他	2	—
特別利益合計	111	7
特別損失		
減損損失	84	—
固定資産除売却損	71	11
施設店舗整理損	358	84
その他	2	—
特別損失合計	516	95
税金等調整前四半期純利益	864	987
法人税等	314	405
四半期純利益	549	582
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	536	575

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	549	582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	4
繰延ヘッジ損益	290	△14
為替換算調整勘定	△257	36
退職給付に係る調整額	△0	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	43	14
四半期包括利益	593	596
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	578	588
非支配株主に係る四半期包括利益	14	7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	13,787	19,995	33,783	—	33,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,271	98	5,369	△5,369	—
計	19,058	20,094	39,153	△5,369	33,783
セグメント利益	795	668	1,464	87	1,551

(注) 1. セグメント利益の調整額87百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「リゾート挙式」セグメントにおいて18百万円、「ホテル・国内挙式」セグメントにおいて65百万円の減損損失をそれぞれ計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	14,005	20,474	34,480	—	34,480
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,548	93	5,642	△5,642	—
計	19,554	20,568	40,122	△5,642	34,480
セグメント利益	238	765	1,003	30	1,034

(注) 1. セグメント利益の調整額30百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な処理の確定)

平成29年3月7日に行われたMichel's, Inc. からの事業譲受について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額509百万円は、会計処理の確定により4百万円増加し、513百万円となっております。また、前連結会計年度末の建物及び構築物は0百万円減少、器具備品は6百万円増加、のれんは4百万円増加、無形固定資産のその他は2百万円増加、流動負債のその他は11百万円増加、利益剰余金は0百万円増加しております。